

2 学年だより

夢の宅配便

2 年学年主任

水野 喜代治

2 年生予行頑張っていました。 城山中学校のDNA

運動会の予行が昨日行われました。1年生の全員リレーの時に、1組の男子が声をかけました。「先生、応援してもいいんですか。」「いいですよ。たくさん応援してください。」と私が答えると「わかりました。」と明るい声で返事をして、大きな声で応援し始めました。

一部の人しか走らない全員リレーでしたが1年生が声援を受けて全力で走っていました。運動会に応援はつきものです。応援がすばらしい演技につながります。応援がブロック結束を固めます。本来ならば、ブロックごとに応援方法があって、3年生の応援係長から応援バージョンが運動会の前に下級生に配付されていました。ですから予行の時は応援が行われて盛り上がっていました。しかし、再開されたミニ運動会では応援係りを組織していないので、組織的な応援が行われない状態になっていました。

2年1組の男子生徒が、1年生の全員リレーを「頑張れー！赤ブロック！」と大声で応援を始めました。赤ブロックの2年生の応援席が一気に明るく活気づきました。「やはり、城山中学校の2年生だな！」と思いました。赤ブロックが応援しているのを見て、他のブロックも応援だして、予行練習の最後のブロックリレーはどこのブロックも盛り上がりました。みんなで一生懸命に競技して、それをみんなで応援する雰囲気が素晴らしいです。ブロックリレーで3位になってしまったアンカーがゴールした時に全校で拍手したこともとても温かい空気に包まれて城山中学校らしいなと思いました。予行の中で、入場曲に合わせて手拍子をする生徒もできました。テンポの良い入場曲に全員が手拍子で盛り上げるなども城山中学校の伝統の一つです。

綱引きは、2年3組の加藤さんが音頭をとって、ブロックに気合を入れていました。「いくぞ！」「おー」と元気な声が校庭にこだましました。すると相手のチームも気合を入れていました。城山中学校の雰囲気が出てきました。やっぱり、みんなの城山中学校のDNAは新型コロナウイルスでも消せないんだなと思いました。城山中学校のDNAに最初に火をつけてくれた2年1組男子に感謝します。みんなで運動会を盛り上げていってください。そして、新しい伝統を作っていけたら素敵だなと思います。城山中学校の生徒のみんなに期待しています。そして応援しています。



1 年生を応援する赤ブロック